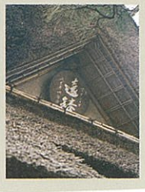
歩いてみよう西国発見。

旅人が行き交ったこの道は
はるかな時空を越え
今につながっている
昔の人々が暮らした「まち」を
訪ねることから
私たちの「まち」さがしの
旅ははじまる…

草津の小路

草津の古い町に入ると、小路がジグザグになっているところが見られます。ここに立つと、一度に遠くまで見通せない工夫(くふう)が感じられます。

茶室までつづく石道。



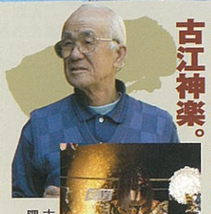
受け継がれる茶の湯の心。上田宗箇流茶の湯

桃山時代に頂点に達して我が国独特の文化となった「茶の湯」は私達に素晴しい世界を残してくれました。

地方都市では数少ない茶道の家元が、西国街道沿いの古江東町にあります。

茶道上田宗箇流は、桃山を代表する武将茶人の一人であった「上田宗箇」を流祖とし、上田家代々によって、この広島の地に承け継がれてきたものです。今日に残された茶碗・茶杓など、また縮景園をはじめとする数々の宗箇の庭園にも、隅々まで力がみなぎっているのが感じられます。

「わしらががんばらにゃあ。」舞いと花火が織りなす、古江神楽。


古江神楽保存会
隅田正喜さん

「昔、神楽は町の大イベントで、神楽を舞う若者はヒーローじゃったですよ。」と保存会の隅田正喜さん。広島では数少ないおっとりとした調子の、十二神祇を舞う神楽の伝承活動を始めてからもう30年以上になります。地域の子ども達などにも神楽の指導を行い、若い継承者も育っています。先頭に立って頑張る隅田さんたちは、地域の素晴らしい財産です。

今は、町のど真ん中。「別れの茶屋」

「別れの茶屋」は、草津の港へ通じる道と西国街道へ通じる道との分かれ目にあった「お休み処」。今はパン屋さんになっていますが、手作りのよもぎ餅やきび餅が、別れの茶屋の名残りをとどめています。

現在の別れの茶屋

昭和6年頃の別れの茶屋